

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277101446		
法人名	有限会社 政経		
事業所名	グループホーム 北寺島の家 (1、2、3号館 ユニット合同)		
所在地	浜松市中区北寺島町206-27		
自己評価作成日	平成25年3月7日	評価結果市町村受理日	平成25年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiqokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosoCd=2277101446-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階
訪問調査日	平成25年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者一人ひとりの暮らしやすい空間作りに日々取り組んでいます。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>浜松駅から歩いて10分弱の、浜松市のほぼ中心に事業所は位置しています。春には馬込川堤防添いの桜並木を楽しめ、また公園、スーパーやクリニックなど社会資源が徒歩圏内にあります。事業所では、利用者に関心を持ってもらうために、食器拭き、洗濯物たたみ、掃除、ゴミ出しなどの家事手伝いをお願いし、残存機能を暮らしのなかで活かす取り組みを行っています。介護度5で入所した利用者が2に改善し、周りが非常に驚いた例もあるなど、柔軟性のある若い感覚をもつ管理者の下、自立へ向かう環境が出来あがっています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人が地域の中で、自分らしく生きて行ける様に支援します」という理念を共有し実践している。	理念は目につくところに掲示してあります。在宅の延長の暮らしが在ることを目指していて、理念の中核をなす「その人らしく」を念頭におき、洗濯たたみなどの家事を日常に位置付けています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入しており、地域の行事等に参加している。 また、小中学生の体験学習の受け入れなどを通じて地域との支援を図っている。	回覧板も廻ってきていて、近所から花が届けられたり、敬老会のお誘いもあります。恒例化している「ボランティア体験」の小学生が、中学生になって「職場体験」で再会となった例もあります。社協にお願いしていた唄や踊りなどのボランティアの訪問も定例化しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今のところ活かしているとはいえない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度自治会長、地域包括センター職員、市職員、入居者家族、職員等の参加で開催され、ホームの状況説明・家族の意見要望、地域の話合いの場として活用している。	自治会長、市担当者、地域包括職員、利用者が参加して隔月開催されています。会議では、感染症、津波・防火体制などに関する意見がでており、行政からは介護関連の最新情報が得られています。	議事録が作成されていますが、家族にも配布され情報を共有し、より安心に繋がることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政窓口とは日頃から行き来や相談を行い、介護サービス事業者連絡協議会に参加している。又、相談員の受け入れもしている。	運営推進会議には、市担当者、地域包括職員が毎回参加しており、行政関連の情報を得る貴重な機会となっています。市の窓口へ直接案内や議事録を届けていて、担当者とは親しく話し各種相談に乗ってもらっています。介護相談員の訪問も月に1回あります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会等を通じて具体的な身体拘束は理解しており、拘束しないケアに取り組んでいる。	身体拘束ゼロ宣言をしていて、玄関施錠はありません。常にどのような状態が拘束になるのかを考えながら取り組んでいて、スピーチロックに関しては細心の注意を促しています。本部研修の必須課程にもあり、また毎週の朝礼通達でも徹底されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会等を活用して、学ぶ機会を設けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	回数は少ないが、後見人をしての方を招き学ぶ機会を持っている。これまで2人の方が利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、説明し理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、不満、苦情等を聞き入れ反映させている。	毎月の請求書を原則手渡しにして月に1度は来設を促す仕組みがあります。面会時には必ず家族に質問を投げかけているため、意見も直接ももらえています。パットの使用頻度への要望など、実際のサービスに反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議を行い、職員の意見や提案を出し、反映させている。	本部の地域責任者も出席して、月1回の定例会をもっています。職員との個別の面談はありませんが、ユニットリーダーを介して要望や提案を引き上げています。別のユニットの職員がヘルプできてくれることで、全館の風通しが良くなるといった効果が生まれたこともあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個人が働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議にA、AA、B課程の受講義務付けがある。又、自己啓発として年3回研修レポート提出がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の総合病院が閉鎖した為、現在は勉強会に参加していないが、市の講演会等へ参加している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来るだけ、本人及び家族からお話を伺うようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来るだけ、本人及び家族からお話を伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の心身の状態や家族からの状況などを聞いた上で対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	カルテや本人の話から得た情報をもとに、その人らしい生き方が出来ることを大切に支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の場はホームであっても、家族と一緒に生活支援をしている。関係を築く努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族より伺い、支援に努めている。	キーパーソンに了解を得た上で、飲み仲間だった旧友の面会が頻回にあります。受診での外出や家族との外出時で外食をしてくることもあります。数名が新聞の購読をしていて、裁縫や絵画の趣味の継続支援にも努めています。ハーモニカ演奏をしてくれる利用者もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人になったり孤立しない様に本人にも協力して頂いている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お付き合いは大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	フェイスシートやアセスメント等を使って努めている。	入居前にはフェイスシートでアセスメントし、その後変化がなければ年に1回アセスメントをとり、意向や希望を取り入れ介護計画を作り直しています。意思疎通が出来にくい利用者の意向には特に気を配っていて、声掛けを頻回におこない思いを表出させる取組みをしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートやアセスメント等を使って努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	フェイスシートやアセスメント等を使って努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	情報を共有するため常時カンファレンスを行っている。	担当制を敷いています。3ヶ月に1度のモニタリングを行い、短期目標での見直しに繋がっています。利用者状況により6ヶ月から1年の間で、中長期目標の見直しをしていて、各ユニット毎の計画作成担当がケアプランを作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、介護経過記録に記録している。申し送りノートも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のご要望の応じた支援をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の自治会に加入しており、敬老会に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度定期受診をしているが、体調に変化が見られた時も早目の受診をしている。	必要時には往診が得られるなどの安心感があり、また受診は職員の介助があることから、殆どの利用者が事業所の協力医に変更しています。訪問看護は週2回あり、バイタル、状態観察を経過記録に記載しています。受診時には経過記録を持参し適切な治療に繋がっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回、1ユニット1時間の訪問看護師に状態を報告相談しアドバイスや指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には認知症である事、本人の既往歴、服薬について病院に説明している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、ドクター、管理者、計画作成者等で話し合いを行い、今後の方針を決めている。	契約時には延命治療の有無などを確認しています。医療行為のない場合は、ターミナルケアにも取り組む考えがあり、重度化に対応する事業所の考えを家族に口頭で伝えています。看取りの実績は以前はありましたが、近年にはなく病院などへの救急搬送や転所で対応しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルがあるが職員会議等で各々の利用者について話し合う。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、入居者も参加して、防災訓練を行っている。	年2回の防災訓練を行い、内1回は消防署の立ちあい指導もあります。運営推進会議を通して地域には災害時の協力をお願いしていて、自治会からは「何が必要かを考えておいてくれ」との好意的な意見がもらえています。備蓄は3日分あります。	夜間を想定した訓練が未実施とのことで、早い機会に取り組み、適切な避難方法の確認に至ることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他の入居者やほかの家族の前でその人の情報を聞こえない様に話したり、個人情報の記録が判らないように配慮している。	入居者の前で話すことが必要になった時にはインシヤルトークで話したり、居室には必ずノックするなど、誇りやプライバシーに配慮した取組みがみられます。本部での接遇研修を受け、内部研修で共有して、ウェブ研修でも新しい知識を学んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	充分かどうかは不明な点もありますが、出来ていると思います。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人中心の介護サービスを心掛けて行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月、出張理容が来てくれてカット毛染をしていただきます。化粧品等必要な物は職員と一緒に買物に行きます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	時には皆さんの好みを聞き、職員が手作りの食事やおやつを作ることもある。入居者皆さんで食器、おぼん、テーブル拭き等を手伝う。	週単位でメニューが決められ、食材は業者から届いています。年1回は嗜好調査を行い、行事食では雛祭りでのちらし寿司や刺身弁当なども楽しみの一つで、時にはラーメンに喜ぶ利用者の顔があります。皮むきや豆のひげとりなど準備から、片づけまで手伝う利用者も視認しました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食事量、水分量をチェックしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは自分で出来ている人には声掛けし、出来ない人には介助しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、時間になるとトイレ誘導声掛けをしている。	自立者を除いては排泄チェック表を活用し、声掛け誘導で失敗の少ない取り組みをしています。掴まり立ちが出来る人には出来る限り自立できることを目指していて、紙パンツ+パットで日中を過ごせるなど改善した利用者もいます。夜間は定時誘導や睡眠優先など個別に対応しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ自然排便がある様に、水分補給、ラジオ体操、散歩をしたりして、体を動かしていただく様にしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調に合わせて入浴をしていただく、又、気の合う者同士で入浴を楽しんでいただいています。	週2回の休浴日があるほかは、多くの利用者が週4～5回の入浴をしています。大きな浴槽では仲良く2人で入浴することもあります。お茶がらを利用しての湯や、柚子、蜜柑の風呂を楽しんでいます。入浴を嫌がる人には清拭や足浴を行って清潔保持に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は離床と適切な活動を促しているが、本人の体調に合わせて休息も配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬について職員が理解しており、セット箱を作りセット間違いのないよう支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を決めて食器拭き、テーブル拭き、洗濯たたみ等を決めて頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩外気浴を行っている。又、本人の希望に応じて買物にも同行する支援をしている。	天気が良ければ、ほぼ毎日、近くの公園や科学館、また、桜めぐりの堤防コースでは水辺のカモを見て楽しむなど、頻回な外気浴が叶っています。時には公園でおやつを持ち込んでピクニック気分にも浸ることもあります。ドライブでは万葉の森などにもでかけています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理出来る方、出来ない方色々ですので、一括して管理し買物等は職員と共に支払いは済ませる様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があればその度支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは開放感があり、季節感を持ってもらうために絵、貼り絵、写真などを張り出しています。	温かみのある家庭的な雰囲気のある共用空間です。入居者と作った作品が壁に飾られていて、職場体験の中学生からの手紙も添えられています。空気清浄機も設備され、掃除は毎朝行い、換気は朝、夕方も行なうなど清潔が保たれています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには気の合った者同士がテーブルに座れるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使用していた物(家具等)を持ち込み、居心地がよくなる工夫をしている。	カーテン、エアコン、ベッド、洗面、クローゼットが備え付けてあり、整理筆筒やテレビなど馴染みの物の持ち込みもあります。掃除、換気も毎朝行われ、モップ掛けを手伝う利用者もいて、自分の部屋意識を持ち続けています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には名前を、トイレには目印をつけ、廊下やトイレ等には手摺が付けてある。		